

# 森の緑を皆で残そう



湧水池がある。鴨の番いが泳ぐ。それを上から抱きかかえるように森が広がっている。スタジイ、シロダモの巨木がそびえ、奥はかなり高くなっている。畑地や住宅につながる。風に揺れる竹林を抜ける板敷きの遊歩道がある。独歩の「嗚呼山林に自由存す」といかなければわれ山林をみすてし」というところ。一・一鈴の別天地。しかし、見捨てられたわけではない。

酒井根の「下田の森・友の会」の人たちが、ボランティアの活動見学に行った4月には、邸内では木々が芽吹き、花々が咲き始めていた

三千坪という邸宅には、十一面観音や不動明王の石像があり、木倉、味噌倉、米倉が並び、瓦屋根になったが住居は曲り屋という。倉には、ボランティアの人たちの使う農具などが置かれていて、屋敷林の樹木も手入れされている。六回の試行錯誤で出来たという竹炭をもらってきた。門前には梅林があり、梅を売って、活動の資金にもなっている。隣に、千葉ではこれ一本だけというケンボナシの老樹が辛うじて立つ。屋敷林からのぞくように、カヤとケヤキの大樹が、あたりを見下ろしている。



この湧水池の森は、森林の保護・管理をする埼玉県生態系保護協会に寄付され、「育む会」が手入れをしている



新松戸駅に近い松戸市幸谷に閑さんという旧家がある。亡くなった先代の武夫さんの、森を大切にしようという意思を娘の美智子さんが継ぎ、「閑さんの森を育む会」というボランティアの組織が協力し、地続きの湧水池のある森などの保全がはかってきた。代表は美智子さん。五百坪ほど離れて「溜ノ上の森」という〇・五鈴の森もあり、ハリギリやヒサカキの奥にタケノコが顔を出している。